

第6学年1組 道徳学習指導案

指導者 上林 京子

1 主題名 明るく生きる 1－(4) 誠実, 明朗

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目1－(4)に位置付けられ、「誠実に、明るい心で楽しく生活する。」ことをねらいとしている。

誠実さとは、人が見ている、いないに関係なく、自分の良心に従い真心を持って行動することである。児童自身や集団生活において、自分自身に対する誠実さや、明るく楽しい生活を心掛けることが大切なことである。児童も高学年になると、誠実に行動することの大切さや約束は守らなくてはならないものだ、ということは理解できてくる。反面、この時期の児童は自分本位な考えや行動をとってしまう場面も少なくない。また、その場の雰囲気や軽々しく発言したり、自分自身をごまかして楽な方へ流されてしまったりすることも多い。

そこで、自己中心的な考え方から脱却して、良心に従って精いっぱい努力したり、人に対して陰ひなたなく真心を持って接したりするとともに、明るく楽しい生活をしていこうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について(男子10名, 女子16名, 計26名)

学級の雰囲気は明るく、何ごとにも一生懸命に取り組もうとする児童が多い。クラス替えのない単学級ということで、人間関係が固定され、ややもすると甘えやなれ合いが見られる。

実態調査(調査人数26名 5月24日調べ)

1 誠実に行動できなかった経験はありますか。

ある 24人 ない 2人

2 「ある」と答えた人に聞きます。

① それはなぜですか。

ばれないと思ったから 3人 忘れたから 3人 怒られそうだから 3人
他の約束があったから 2人

(1人の答の主なもの)

自分のせいにされたくなかったから

面倒くさかったから

正直に言うといじめられると思ったから

② 誠実に行動できなかった後はどんな気持ちでしたか

後悔した 5人 もやもやした気持ち 4人 嫌な気持ち 3人
不安な気持ち 2人

(1人の答の主なもの)

いけないことをした

どうしようという気持ち

気にしなかった

以上の実態調査から、事の大小の差はあるもののほとんどの児童が誠実に行動できなかった経験を持っていることが分かる。その行動は、「忘れた」「面倒くさい」「ばれない」などの自分本位な考えから出たものである。反面、誠実に行動できなかった後は、ほとんどの児童が後悔の念やもやもやした気持ち、嫌な気持ちを抱いている。このことから、誠実に明るく生活することの大切さについては大多数の児童が理解しているものの、安易な方向に流されたり、心の弱さからうそやごまかしといった不誠実な言動をとったりしてしまう児童も少なくないと考えられる。

そこで、誠実に明るく行動することは自己の明るい心となって表れ、自己を向上させるということに気づかせるとともに、どのような状況にあっても、誠実に行動し、みんなと共に楽しい生活をしていこうとする態度を育てていくことが大切だと思われる。

(3) 資料について(資料名 「手品師」 東京書籍)

本資料は、手品師が、明日も来るといふ男の子との約束をとるか、「大劇場で手品をしないか。」という友人の誘いをとるか迷った結果、男の子との約束を守り通したという葛藤資料である。

大劇場に出る夢を捨てて男の子との約束を果たすことを決心するまでに、自分の都合も考え、非常に迷っている手品師の心の葛藤をしっかりと見つめさせ、気持ちに共感させることを通して、誠実に生きることの難しさや明朗で快活な生活を送るためにも、自分をごまかすことなく、明るく精一杯生きようとする気持ちの大切さを感じ取らせ、ねらいとする価値に迫りたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

いつも誠実に生きることの快さに気づき、明るい心をもって生活しようとする心情を育てる。

(2) 学校教育指導方針の努力事項との関連

努力事項「児童生徒が楽しみに待つような道徳の時間の在り方の追究」に対して、以下の取り組みをする。

- ・ 一人一人の意見が生かされるとともに、意見を共有し、共に考えられる話し合いの場の工夫する。
- ・ 児童が今までの自己を振り返ったり、自己の変容を感じ取ったりすることのできるワークシートを工夫し、評価に生かす。

(3) 準備・資料

教科書、場面絵、短冊カード、ワークシート

(4) 展開

主な活動と発問	予想される児童の反応	教師の支援・評価 (◎：努力事項との関連)
<p>1 約束について話し合う。 「約束を破られたことがありますか。」</p> <p>2 読み物資料「手品師」を読み、手品師の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○ 「きつとき、きつと来るよ。」と言った手品師はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>◎ 友人からの電話の返事に迷っているときの手品師はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>○ たった一人のお客さまの前で、手品を演じているときの手品師はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>3 今までの自分を振り返る。 そうした方がよいと思ったことを行動に移せたことがありますか。(移せなかったことがありますか。)</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>・遊ぶ約束をしたのに来なかった。 ・貸したゲームを返してくれなかった。</p> <p>・約束だ、ちゃんと守るよ。 ・どうせ暇だから。 ・自分の手品を喜んでくれるなら。</p> <p>・約束しなければよかった。 ・せっかくのチャンスだ。大劇場へ行こう。 ・自分の夢をかなえたい。 ・男の子へはまた今度見せてやればいい。 ・男の子へ理由を言いに行こう。 ・約束はやぶれない。 ・男の子を裏切ってしまう。 ・男の子を傷つけない。 ・チャンスはまた来るさ。</p> <p>・約束を守ってよかった。 ・男の子が喜んでくれてうれしい。 ・やっぱり行かなくてよかったんだ。</p> <p>・自分の掃除分担が終わった後、他の分担場所の手伝いをしてあげた。 ・お金を拾って警察に届けた。</p>	<p>・ 約束を破られたことやそのときの気持ちを発表し合うことによって、関心を喚起し、本時の方向づけとする。</p> <p>・ 教師が範読をする。 ・ 場面絵を掲示しながら資料のあらすじを確認する。 ・ 貧乏だが夢をあきらめずに努力している手品師の人柄と男の子の寂しい境遇をしっかりとらえさせる。</p> <p>・ 男の子が目を輝かせて喜んだことが手品師の心を打ったことをとらえさせ、二人の約束の重さに気付かせる。</p> <p>・ 苦しみ、悩んだ手品師の心の葛藤を十分に話し合わせる ・ 手品師の気持ちに共感させることで、誠実に生きることの難しさや自分をごまかすことなく真心を持って接することの大切さに気付かせたい。</p> <p>◎ 手品師の心情を個人→ペア→グループ→全体の順で話し合いの場を広げていくことで児童一人一人が自分の意見を話し合いの中で生かせるようにする。</p> <p>・ 約束を守って行動した時のすがすがしい気持ちや達成感に共感させたい。</p> <p>評 話し合いを通して、いつも誠実に生きることの快さに気付き、明るい心をもって生活しようとする気持ちを持つことができたか。(発表)</p> <p>◎ 特に、意見の発表は求めず、各自のこれまでの経験についてワークシートに書かせ、自分の考えを深めるさせたい。</p> <p>評 ワークシートをまとめることで自分の考えを深めることができたか。(ワークシート)</p> <p>・ 心のノート (P. 22, 23) を紹介し、余韻が残るようにする。</p>